

## 資料室だより 170

今年、カトリック教会はフランシスコの大聖年を祝います。アッシジの聖フランシスコは地球的規模で愛される聖人であると同時に世界の平和、そして環境問題を考えるとき最も重要なキーパーソンになります。また、音楽の人でもあったフランシスコのもとからは実に多くの音楽家が輩出されています（杉本ゆり：音楽史上に残るフランシスコ会士参照）。

ところで、有名な「太陽の賛歌」（被造物の賛歌）は音楽史年表には1225年の音楽史上の大きな出来事として銘記されています。楽譜は残っていないので旋律はわかりませんが、ウンブリアの方言混じりで書かれたこの賛歌は神への賛美を地球的な規模で分かち合うものとして現代の環境問題の中枢に預言的にインスピレーションを投げかけます。音楽、文学のみならず、キリスト教霊性史の中に大きな影響を与えているこの賛歌は当然多くの作曲家が手掛けています。フランツ・リストの *Cantico del sol di S.Francesco d'Assisi* が有名ですが、アメリカを代表する女性作曲家エイミー・ビーチも Op. 123 として *Canticle of the sun* を作曲しています。現代の宗教音楽の大家、エベン（2007年没）やソフィア・グバイドゥーリナ（2025年没）も名曲を残しています。グバイドゥーリナの作品 *Sonnengesang* はメシアンの *Saint Francois d'Assisie* と並んで現代宗教音楽の最大傑作のひとつでしょう。

さて、当資料室にあります「太陽の賛歌」の楽譜をご紹介します。1937年生まれの Louis Dumontier の *Il Cantico del Frate Sole pour orgue* がベルガモのカッラーラ社から出ています。10章から構成され、1. Introduction(導入)、2. Messier Frère soleil (私の主君、兄弟なる太陽)、3. Soueur lune(姉妹なる月)、4. Frère vent(兄弟なる風)、5. Soueur eau(姉妹なる水)、6. Frère feu(兄弟なる火)、7. Soeur notre mère la terre(姉妹なる母なる大地)、8. Bien heureux ceux qui pardonnent dans l'amour(愛ゆえに人を赦す幸いな人)、9. Notre soeur la mort corporelle(姉妹なる肉体の死)、10. Alleluia(神を讃えよ)、となります。

1曲1曲は短いキャラクターピースですので個別に取り出して演奏することもできます。是非チャレンジしてみてください。

他にはパドヴァのアントニオ研究所が出版している Bernardo Rizzi(コンヴェンツアル・フランシスコ会士)の2曲、*Il cantico del sole* (独唱、合唱、オーケストラ)、*Cantico dell creature*(2声とオルガン)があります。後者はオルガンあるいはハルモニウムの伴奏でシンブルな2部合唱ですのでパイプオルガンがない小教会と少人数のアマチュアを想定して作曲されています。

いずれも聖グレゴリオの家ならではの楽譜収集の一環です。是非手に取ってごらんください。

(杉本ゆり 記)